

# 平成30年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

## 1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

## 2 調査の概要

### (1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

### (2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

### (3) 調査対象時期

平成30年1月(次回調査は平成30年7月予定)

### (4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感 (生活の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感 (地域経済の回復度、直近6ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近6ヶ月間の進捗状況)

### (5) 回収結果

有効回収率 83.7%(128名/153名) <前回 79.1%(平成29年7月調査)>

### (6) 回答者の属性

#### ①性別

性別	人数	割合
男性	86	67.2%
女性	42	32.8%
不明	0	0.0%

#### ②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	40	31.3%
沿岸南部	88	68.8%
不明	0	0.0%

#### ③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	18	14.1%
40歳台	29	22.7%
50歳台	45	35.2%
60歳以上	36	28.1%
不明	0	0.0%

#### ④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	73	57.0%
被災なし	49	38.3%
不明	6	4.7%

### ⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など) 50名(39.1%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など) 37名(28.9%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など) 41名(32%)

#### ■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、  
沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

### 3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が86.7%と前回（83.5%）を3.2ポイント上回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は3.2%と前回（3.4%）を0.2ポイント下回った。

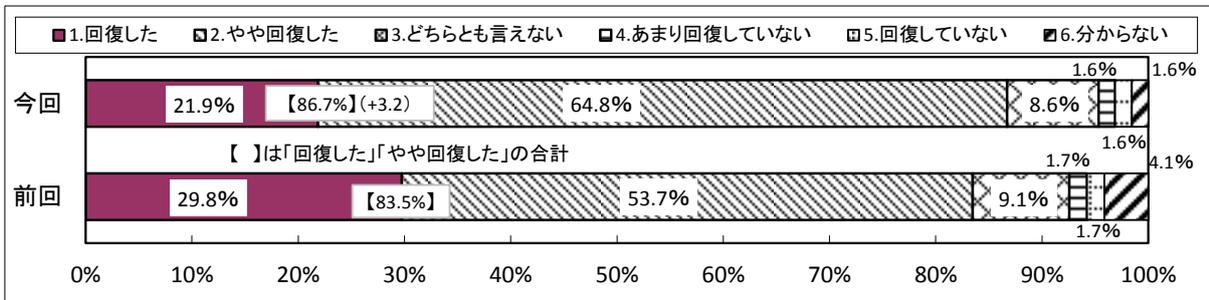
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で80.0%と前回（88.1%）から8.1ポイント下回り、沿岸南部では89.8%と前回（81.0%）を8.8ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は9.8%と、前回の7.1%を2.7ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が78.7%と前回（76.0%）を2.7ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は4.7%と前回（5.0%）を0.3ポイント下回った。

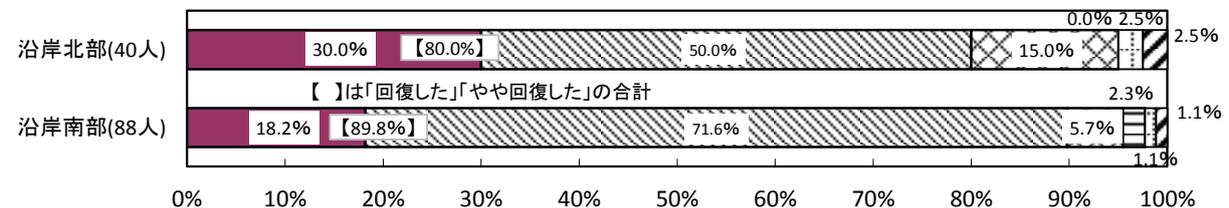
住環境がかなり改善されてきていると評価する声がある一方、いまだ仮設住宅への入居を余儀なくされている方への対応や新たなコミュニティの構築が課題との声があった。

#### ① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

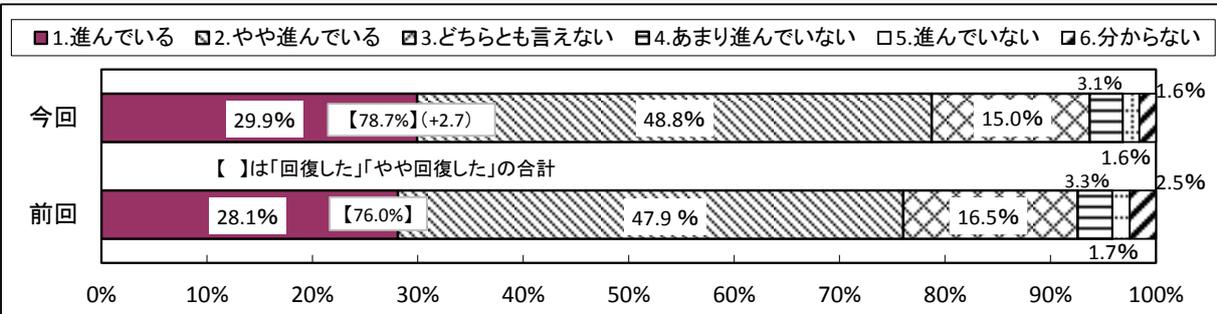


#### 地域別

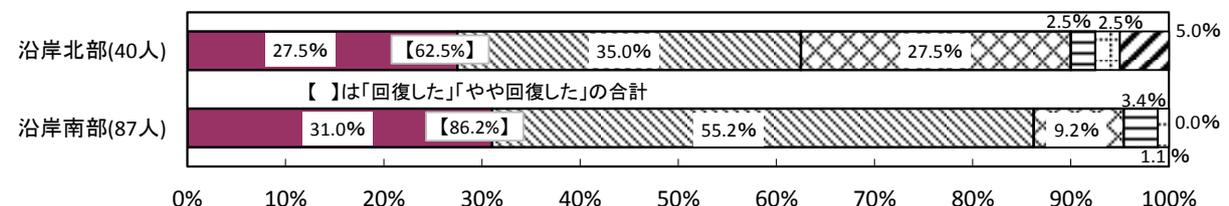


#### ② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( ) 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆まだ一部の人が仮設住宅に住んでいるが、織笠地区は、高台移転、災害公営住宅入居の人は普通の生活を送れるようになった。宮古～山田間の復興道路が開通し、かなり便利になった。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆小学校の校庭にあった仮設住宅の撤去が終わり、地域にある仮設住宅に住む被災者もごくわずかとなった。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</li> <li>◆住宅の再建は終わっている。落ち着いて仕事に励んでいる。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</li> <li>◆不便を感じる事がなくなった。笑顔をよく見られるようになった。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆仮設住宅が取り壊され、入居している方が居なくなってきている。それぞれに状況が落ち着かれたように思われる。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> </ul>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆就職活動も自分の希望条件を重視して仕事を決められるようになった。以前のようにとにかく収入を得るためにどんな仕事でもというように自分の希望など言っていられない感じはなくなってきた。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</li> <li>◆現在自分の住んでいる町が、高台の造成が出来つつあり住宅も建ちはじめた。高台に自分の家も土地が決まり、来年には建設する予定である。それと、高田町のかさ上げ地の商店もどんどん建設されている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆仮設住宅から災害公営住宅への移転も進み、住環境は改善された。現在仮設住宅には、高台移転希望者が残っている。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆道路工事や高台移転もだいぶ進んでおり、同時に仮設の解体工事も始まっていることより、回復はだいぶ進んでいると感じる。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆皆さんの表情が明るく、穏やかに感じられる。スーパーでの買い物、また日常の生活も、普通に帰った感じがする。それぞれの頑張りで住居、店舗等を作って、落ち着きを取り戻した方々もいる。反面、嵩上げが終わらず、引き渡しを待って、未だ仮設住宅に残っている方もいる。でも、この方達は行き先が決まっているので、気持的には落ち着いている。また、公営に入るか自立するか、未だ決めかねている方も少なくない様に見える。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆高台移転、住宅再建が進んでいると感じる。仮設住宅から出られる人が多いのがその理由。公営住宅も完成されて来たので、日常の生活に戻りつつあると感じる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆仮設住宅の在居状態は3割を切っており、自立建設や公営住宅への移住が進んでいる。これからは新居地域でのコミュニケーションの在り方が問題になって来ると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆町の造成も終り一気に住宅再建が進み震災前の町に戻るのはまだまだだが、みなさん自宅の再建を楽しみに毎日がんばっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</li> <li>◆仮設住宅(みなし仮設)から全員出られることが次のステージと考える。また、家のローンで苦しむ方や行き場がなく公営住宅に入居された方々へのサポートを期待する。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</li> <li>◆高台移転の最終と思われる住宅建築が進んでいる。住宅再建に伴い、新たなコミュニケーションについての取組が進んでいる。(50歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</li> </ul>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害公営住宅団地内のコミュニティは時間をかけ念入りに自治会を良い状態で立ち上げているところが多く、それを支える支援のあり方等素晴らしいと評価している。しかしその状態を何年も維持させるのは難しそう。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> <li>◆仮設に残っている方が少なくなってきた。まだ、宅地が引き渡しにならない地区、公営住宅が完成していない地区もあるが、町内全域で見れば、半数以上が新居で暮らせる様になった。しかし、災害公営は、数年後には家賃の軽減が無くなるので、年金暮らしの方は大変である。私自身は1ヶ月程前に新居に移った。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> </ul>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆現在、仮設住宅に住んでいる方々に自分の住家の将来への見通しが立たない方々が見受けられる。特にも高齢者の方々が多いうのである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</li> </ul>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が57.8%と前回(62.8%)と前回を5.0ポイント下回り、「あまり回復していない」「回復していない」の合計は5.5%と前回(4.9%)を0.6ポイント上回った。

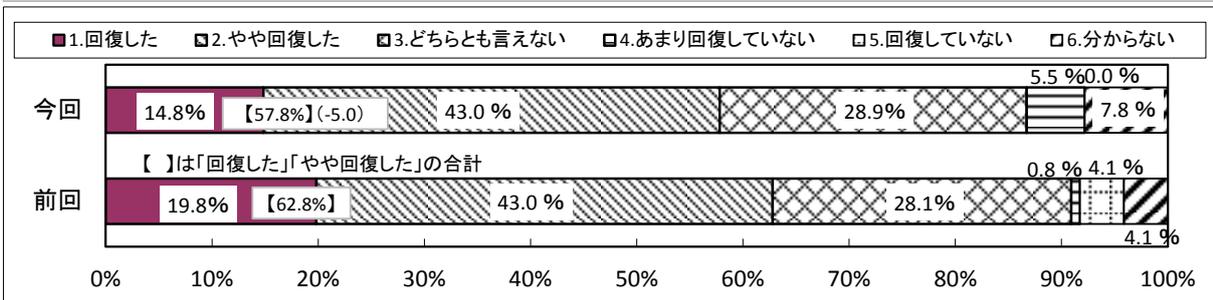
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で72.5%と前回(76.2%)を3.7ポイント下回り、沿岸南部では51.1%と前回(55.7%)を4.6ポイント下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は21.4%と、前回の20.5%を0.9ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」「やや進んだ」の合計が48.0%と前回(57.0%)を9.0ポイント下回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は4.7%と前回(9.1%)を4.4ポイント下回った。

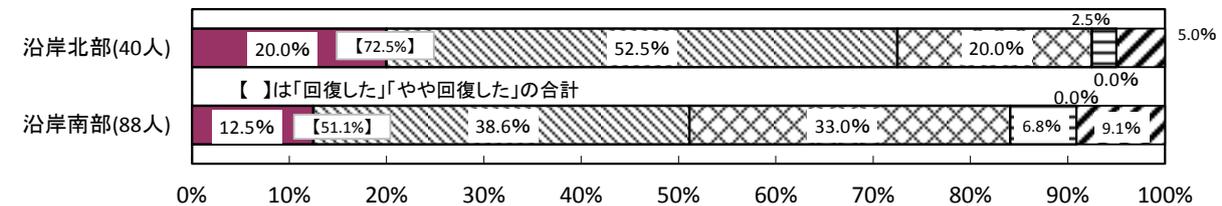
仮設営業から本設営業に移行する店舗が増え、町に賑わいが出始めているという声がある一方、サケなどの基幹魚類の漁獲量減少や復興工事終了後の建設需要減退に対する不安の声もあった。

#### ① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

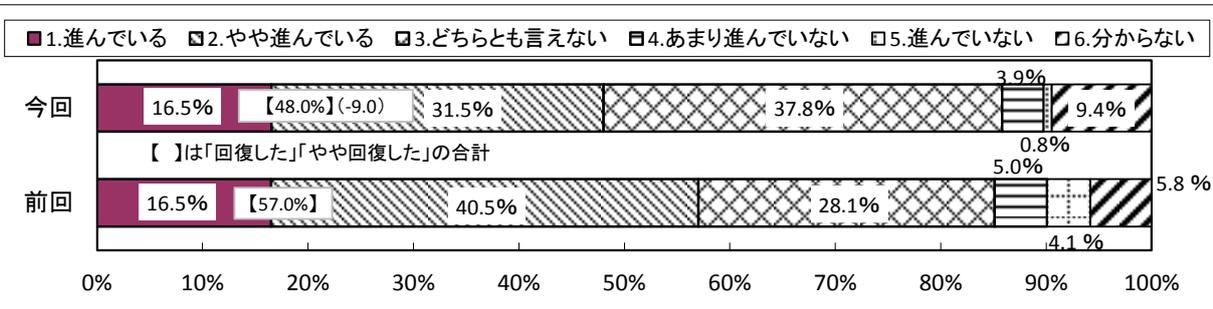


#### 地域別

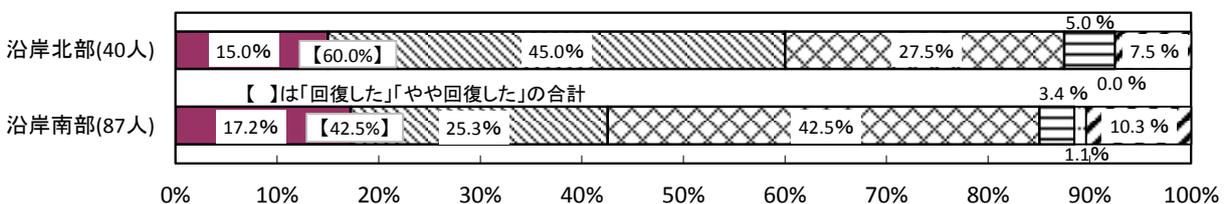


#### ② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由</p>	<p>◆水産業、農業は被災前と同じように回復したと思う。今年度はサケ、ホタテ等不漁だったが、1年後の2019年リアス線(宮古～釜石)が開通すると、地域経済が活性化すると思う。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆漁業を営む皆さんは震災を乗り越え、家族皆で、組合全体で、力強く取り組んで頑張っている。不漁もあるにせよ、津波には負けたくない意地がここまでやり通して来た。「一生懸命やればそれだけの見返りがある」。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆仮設店舗で営業しているところもあるが、近いうちに再建されたところへ移動するようである。水産業もだいぶ回復してきているように思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由</p>	<p>◆基幹魚種であるサケ、スルメイカ漁等が不振で、さらにサンマ漁も今期は不振であった。魚価高は磯漁や浅海養殖業者の収入を増やしている。「オール商店街」の完成は周辺の商圏域の活性化に繋がっている。また昨年は、金融団も中央に新店舗を構え、活気が出てきたようである。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災前と比べて、規模は小さいながらも店舗も再建され、回復している感じがする。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆被災地域にも活気が出てきており、それに伴い経済も回復傾向が見られるようになってきた様子がある。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆養殖漁業はだいぶ回復したと思う。加工、販売が追いついてきていない。地域経済は、発展途上である。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆土木業界の様子を見てみると、忙しさを感じるので回復はしているものと思う。ただし、将来的に続く忙しさではないと思うので、持続可能な何かを今のうちに見つけなければならないと思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆魅力的なイベントの開催、商業施設の充実等がみられ、経済の回復につながっていると感じている。道路、鉄道の整備も進んでいるように見える。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆震災前と後という点、震災からの復興という点で考えれば、回復しているのだと思う。しかし、震災がなかったとしても地域経済の活性化については、市民皆で考えていかなければならない問題であるとする。震災があったから、昨年の台風被害があったからという視点ではなく、新たな視点で地域経済をどのようにしていくかを考えていかなければならないのではないかと。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆住宅の新築工事が落ち着き、その分、景気の良さも低下した感がある。求人件数は多いものの、給与水準の高い土木系に人が取られ、長期間求人募集を続け続けているものもあり、マッチングなどが必要と思われる。(39歳以下,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆経済活動の活発化への意欲が住民から感じられるにもかかわらず、具体的な動きに直結していないことが多い。水産業においてはサンマ・サケの不漁による将来的不安が増すばかり。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆宮古山田間の自動車道が開通し、大変便利になった。地域経済の回復には、寄与するものと思われる。基幹産業であるサケ・スルメイカ・アワビ等の不漁が心配。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆建設や土木で多くの作業員やダンプ車で交通量も多く活気づいている様に思うが、この工事が終了した後はどのような経済状況になるのか、正直わからない。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆産直施設がオープンするなど、新たな雇用が生まれ良いことだが、施設の運営やPRなど活かしきれていないように思う。せっかく施設を建てても、採算が取れず閉店する事がないような運営をしてほしい。水産業は、不漁が続き元気がない。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸北部)</p> <p>◆行政や金融の支援は手厚いものと捉えている。人口減少をはじめとする、将来への不安と経営者の高齢化が、再建や新規事業立上の障害となっている。震災との関係は不明だが、イカやサケの不漁により、水産加工業では震災前と同じ商売が出来なくなっている。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆平成29年度の水産業はかつてない不漁にともない全く経済は大変だった。農業も同じである。(60歳以上,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

### 3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が59.1%と前回(50.4%)を8.7ポイント上回り、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は9.5%と前回(16.8%)を7.3ポイント下回った。

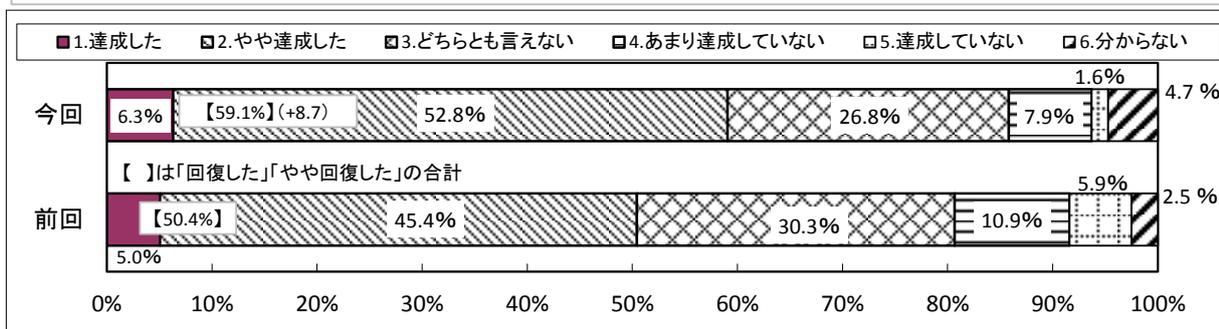
○地域別に見ると、「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で66.7%と前回(54.7%)を12.0ポイント上回り、沿岸南部では55.7%と前回(48.1%)を7.6ポイント上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は11.0%と、前回の6.6%を4.4ポイント上回った。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が64.0%と前回(60.5%)を3.5ポイント上回り、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は6.5%と前回(8.4%)を1.9ポイント下回った。

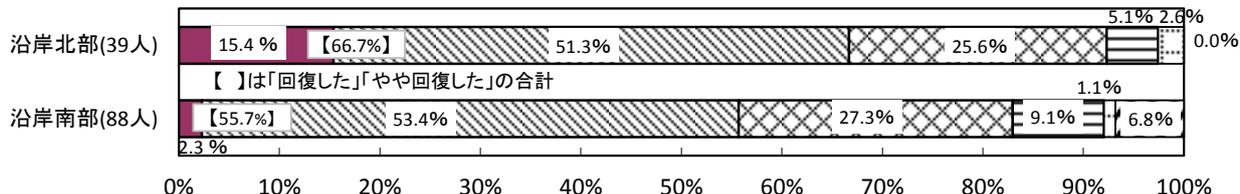
防災施設が充実し始めていることや防潮堤・水門の進捗状況を評価する声がある一方、工事が完了するまでは安心安全が実感できないという声があった。また、防災意識向上の重要性を訴える声もあった。

#### ① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

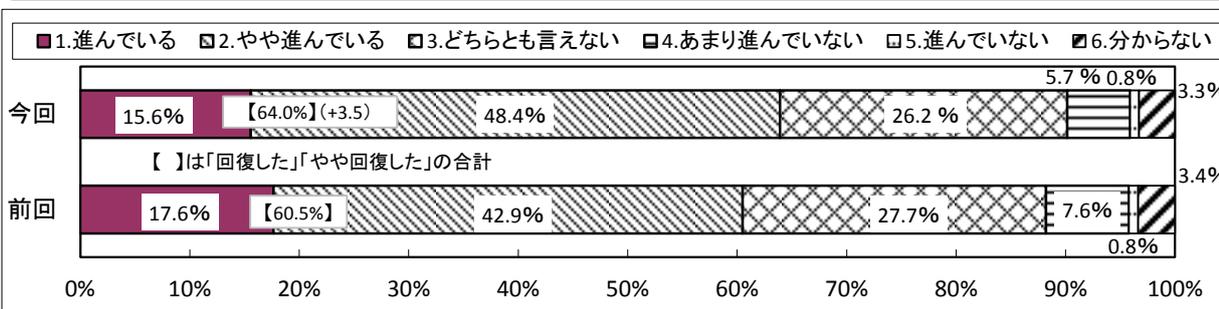


#### 地域別

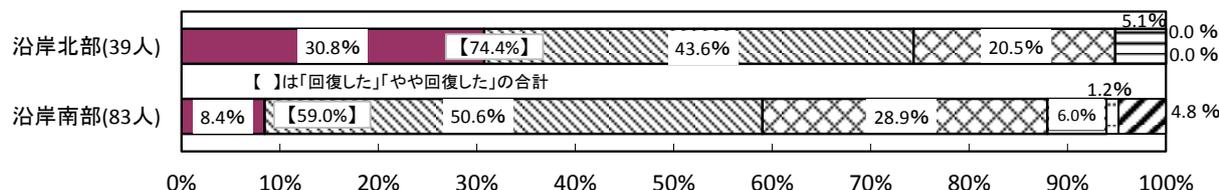


#### ② 直近6ヶ月間(概ね7月から1月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



#### 地域別



\* ( )内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆防潮堤の工事も目に見えて進み、少し圧迫感があるけれど安心できる高く大きな作りになっている。お年寄りの集まる場所(デイサービスセンター等)では安全対策として避難訓練、緊急時の連絡体制をしっかりと整えている。(40歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆当地では防潮堤、水門、県道の嵩上げ(二線提)工事は完了した。すでに避難所対応も備えた小学校、特養老人施設も完成している。被災した公民館(泊地域)、3つの消防屯所も高台へ再建された。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆復興公営住宅も進み、高台も一部だが完成して個人住宅もぼちぼち建設中。それに伴い高台への道路が一直線に完成したことが良いと思う。今はそこへの入口廻りが工事中。完成を期待している。(60歳以上,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台移転、防潮堤が形になってきた。ただし減少した人口がもどってくる気がしない。防潮堤の威圧感で、まちの表情が変わってしまったこと等は進んだといっているのかどうか迷う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p> <p>◆防潮堤の整備が進み目に見えて「安全なまちづくり」が進んでいるように思うが、人の「防災」という意識を定期的に確認することも必要になってくると感じる。(40歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆各種施策は着実に遂行されていると感じている。防潮堤の工事完了等で、達成した印象が持てるのではないかと思われる。(50歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸南部)</p> <p>◆高台建設が進んできている。防災教育、防災の意識は、高まっていると思う。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤が出来て、海は見えなくなった。安全であるような、見えなくて怖いような気持ち。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆道路、防潮堤、嵩上げ、区画整理、商業施設など、新しいまちの完成形が見えてきた。次は、そのまちに最適な避難方策の充実を達成してほしい。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p> <p>◆目に見えて進んでいると感じる。景観は損なわれたとも同時に感じるが、災害対策としては致し方ないと思う。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆進んでいると思う。かなりの達成率で安全なまちができています。しかし、100%になるまでは安心できない。一刻も早く完成を望む。(50歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆現在進行形だと思うが、どのような形になっていくのか、安全安心を実感できない。(40歳代,産業・経済・雇用関連,沿岸北部)</p> <p>◆地震・津波による災害は勿論、水害時の被害の方も頻度が多く、洪水、家屋浸水なども心配である。堤防の早期完成と、住民の防災意識が重なることで、より「安全・安心」「二度と同じ悲劇を起こさない」まちづくりになるように、継続した周知、対策が必要。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防波堤が出来ている地域(県管理のところ)と出来ていない地域があり、どちらとも言えない。夜間に津波警報が出された場所がパニックになるのではないかと心配している。誘導標識が不足している。(60歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆防潮堤や道路も完成していないので、何かあって避難する時は、混雑しまだまだ安全とは思わない。工事の人々が毎日働く姿を見ているので、進んではいると思う。(39歳以下,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p> <p>◆ハード面は着実にゴールに近づいている反面、防災に対する住民の意識の低下があるように思う。避難訓練への参加者数が多くはないこと、防災関連へのイベント等への人出の少なさ等見られるので、意識向上を目的とした事業が必要である。(50歳代,地域団体・郵便局関連,沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆被災した土地に復興住宅を建設しており、安全性の面ではもちろん、そこに住むことになる被災者の精神面の方も心配になってくる。特に、すぐ海が見える場所は、住んでいるだけでストレスを感じてしまうのでは。(39歳代,教育・福祉施設関連,沿岸南部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆震災という点を考えれば、防潮堤が完成しなければ、達成とは言えないと思う。(39歳以下,教育・福祉施設関連,沿岸北部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率に概ね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など  
 教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など  
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

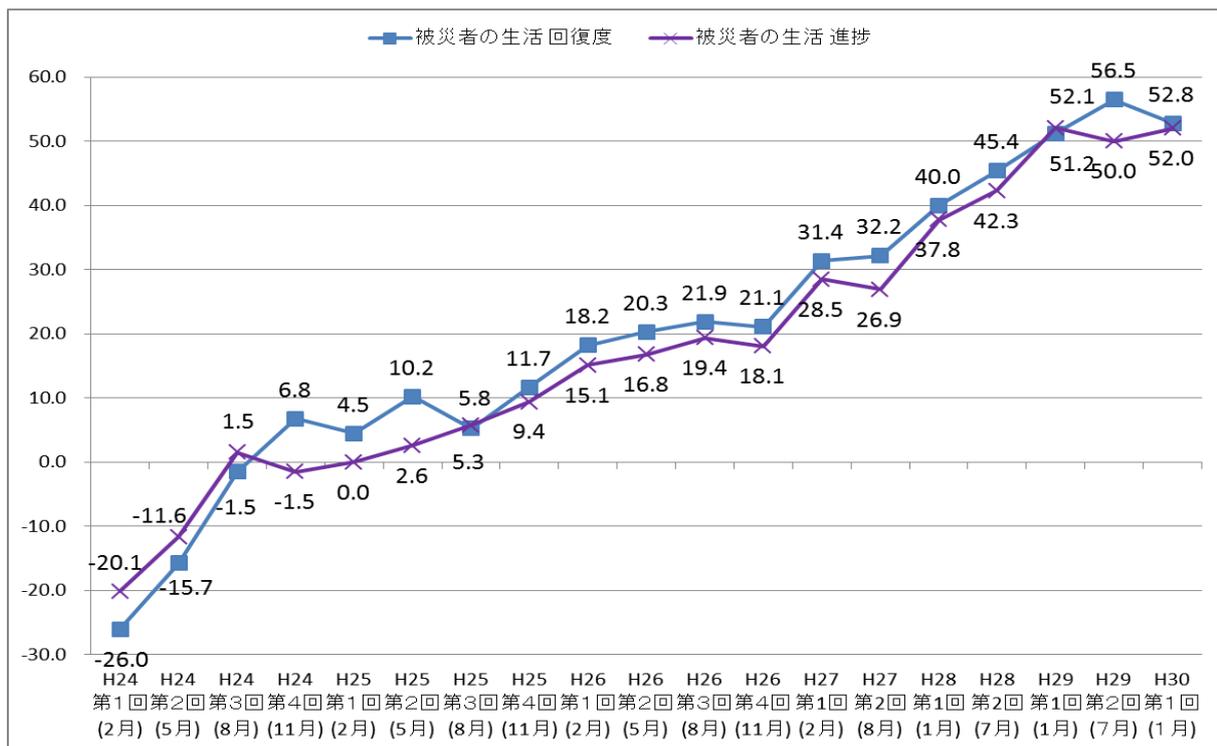
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。  
 動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

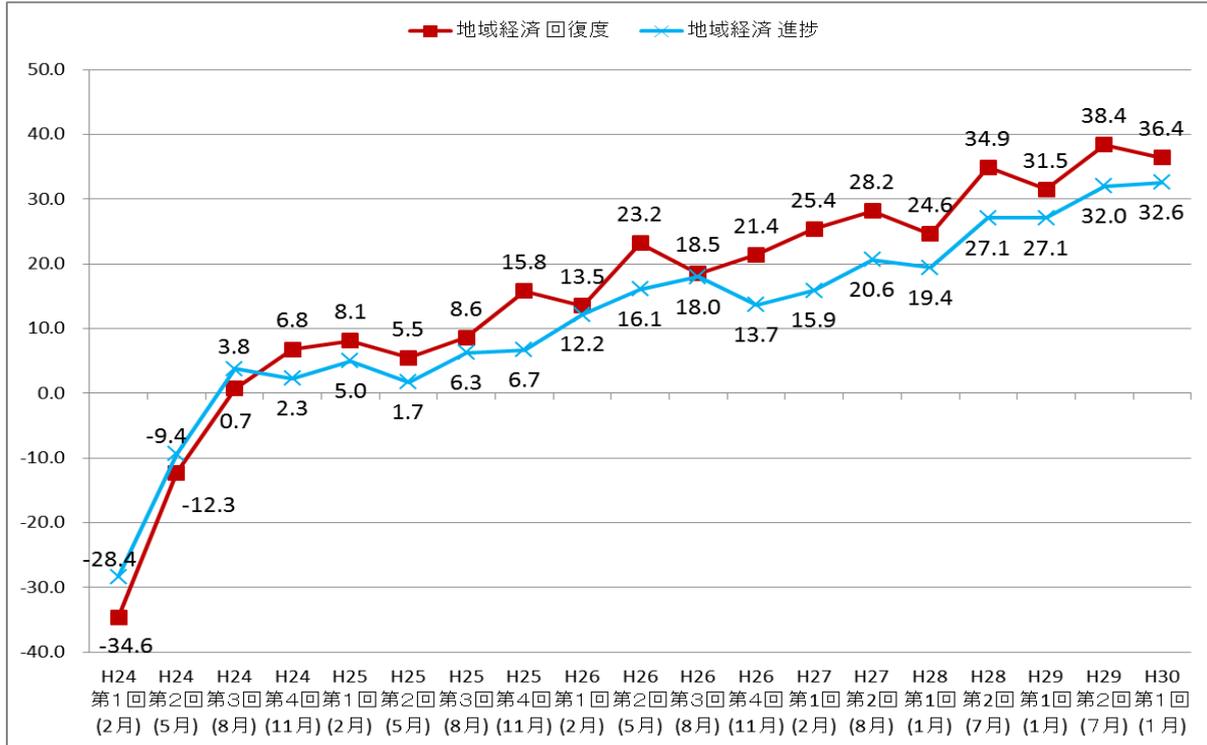
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



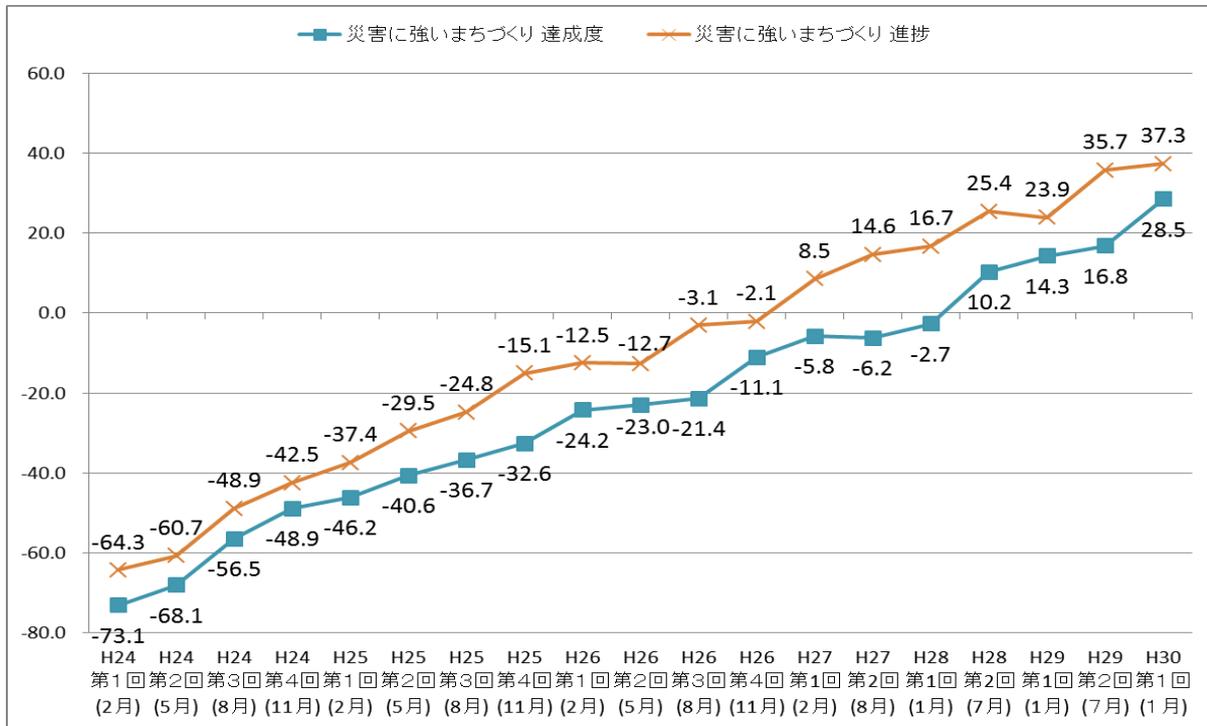
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH29年7月～H30年1月)を指す。

### 【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH29年7月～H30年1月)を指す。

### 【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、概ねH29年7月～H30年1月)を指す。

平成30年【第1回】  
「いわて復興ウォッチャー調査」  
結果報告

発行

平成30年2月16日

岩手県

復興局 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：岩手県震災復興・復興の動き

<http://www.pref.iwate.jp/fukkounougoki/>